

## 一生の思い出

富士見台中学校 宮下 莉緒

私たち 19 人は、アメリカという日本からとても離れている地で、貴重な体験をすることができました。私にとっては初めての海外で、すぐアメリカの生活に慣れることができるのか、英語が苦手な私がコミュニケーションをしっかりとることができるのかなど、不安なことばかりでした。しかし、その一方で楽しみな部分もありました。

この 9 日間で印象に残っているのは、やはりホストファミリーと過ごした 5 日間です。移動中はひたすら緊張していたと思います。そして対面のとき、会ってすぐに笑顔で自己紹介をして、たくさん話しかけてくれました。もうそのときには、緊張していなかったと思います。おうちについてからは、ホストマザーのサラさんがおうちの中を案内してくれました。とにかく広がったです。その後、ホストファミリーのモルガンとデラとカードゲームをして楽しみました。夜、中庭でみんなと話していた際には、日本のことや私たちのこと、ホストファミリー 4 人のことなどについてたくさんお話することができて、楽しい時間を過ごすことができました。2 日目はショッピングに連れて行ってもらいました。お店は広くて、たくさんものが売っていました。そして、外国人である私に向かって、「調子どう?」「いい旅にしてね」と言ってくれました。最初は驚きましたが、正直嬉しかったです。しかも、すごく笑顔で話しかけてくれました。ここで、笑顔で話すのは大切だということを学びました。この日の夜は、ホストファミリーがおいしいハンバーガー屋さんへ連れて行ってくれました。サイズはあまり日本と変わらなかったですが、具材がたくさん入っていて、ハンバーガー一つだけでおなかいっぱいになるほどボリュームでした。だけど、とてもおいしかったです。

他にも、たくさん思い出があります。サラさんのやっている幼稚園のお手伝いをしたり、モルガンと風船バレーをしたり、車の中で変な写真を撮ったりなど、本当に多くのことがありました。ホストファミリーは、私たちを本当の家族かのように接してくれました。私たちが答えやすいよう最初から最後まで分かりやすい英語で聞いてくれていました。本当にありがたいことでした。

帰る日の朝、サラさんが私たちを見たとき、泣いてくれました。このとき、本当に迎え入れてくれていたんだと感じました。「また来てね」「連絡取り合おう」と言ってくれました。

私がこの派遣事業に参加した目的は、もっと物事を広い視野で見たかったからです。そのために、一方的な見方だけではなくて、あらゆる見方で生活することを心掛けました。その中で見えてきたことは、アメリカの方の心の広さです。文化の違う人間同士がコミュニケーションをとる第一歩は、「受け入れてもらえる」「受け入れられる」ということだと実感することができました。また、19 人の仲間やホストファミリー、この事業に関係してくださった方々とのたくさんの新しい出会いがありました。この出会いに感謝したいと思います。そして、積極的に外国の魅力や文化を伝え、広めていこうと考えています。これから、日本とアメリカを繋ぐ架け橋になりたいと思います。

本当にありがとうございました。